

1. 園の教育目標

本園は、園児の健全な成長・発達を図ることを目的としています。幼児期における遊びは特に重要であり、子ども達同士の自由な遊びこそが様々な体験や情操教育にもつながっていくものと考えます。また、自由遊びだけではなく、動と静の切り替えをスムーズにできるよう、森信三先生や岡田武彦先生が提唱された腰立教育や論語素読、その他社会生活に必要な躰の部分にも取り組んでいます。理念にあるように、職員、園児、そして保護者がお互いに信頼関係をもって「にこやかな笑顔で黙って見守る」ことのできるよう、連携を図ってきたいと考えます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ①人間関係こそがすべて。そのために「五事を正す」。
「貌」なごやかな顔つきをし
「言」思いやりのある言葉で話しかけ
「視」澄んだ目で物事を見つめ
「聴」耳を傾けて人話を聴き
「思」まごころをこめて相手のことを思いやること
- ②リスクマネジメント・ほうれんそう・ヒヤリハット
事故（食う、寝る、水遊び）・衛生・苦情を想定すること。
報告・連絡・相談を早めにする。
- ③未来のビジョンを描き、やりたいことにチャレンジする。
興味のある研修や講習を探し出し、受講してみる。
どんな分野でも行きつくところは人間力。

3. 目標・計画に対する総合的な評価結果

- ①について
今年度も新卒を採用することができましたが、年度当初から定年者と退職希望者がいました。年度末にかけて職員同士協力しながら良い雰囲気の中で保育ができていたと思います。一方で認識違いや新しい保育に対する理解の乖離で職員間の関係がぎこちなくなったり否めなところもあります。ベテランに対する時代とともに変わっている保育理解や新人や若手に対する労働環境の改善を進めていく必要があります。
- ②について
毎週のリーダー会議でスピーディな動きができていました。園長・主任・副主任における

役割分担が機能していると感じていますが、まだまだ各種マニュアルや計画実践においては、現場理解を進めるには課題があります。次年度はこの課題解決に向けて新たな組織を創り、機能させていきたいと感じています。

③について

仕事とプライベートを切り分けながらも、保育のプロとして意識の醸成を高めていく必要があると考えています。そのためには、刺激のある研修への派遣、外に出て異業種と触れ合うことなどが必要なので、コロナが収束していく中で、改めて学びの場を提供していきたいと考えます。

4. 今後取り組むべき課題

今年度は予定外の退職者が多く出ました。こういった状況に対応していくためには、職員間の人間関係をスムーズにすること、リスクマネジメントに対する意識を醸成すること、そして心の余裕を持てるような労働環境を整備することと考えています。

次年度は、今まで作っていた係を再編してチームとし、明確な役割を副主任を中心にするとともに、休憩時間を確実に確保することを優先して参ります。